

教員名	加賀美 常美代 (KAGAMI Tomiyo)
所 属	国際教育センター・グローバル文化学環
学 位	文学博士 (東北大学)
職 名	助教授
URL / E-mail	http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm / kagami.tomiyo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

異文化間コンフリクト / 教育価値観 / 多文化間カウンセリング / コミュニティ援助

◆主要業績

総数 (10) 件

- ・加賀美常美代 多文化社会の葛藤解決と教育価値観 2007.3 ナカニシヤ出版 pp1-173
- ・加賀美常美代 教育的介入は多文化理解態度にどのように効果があるか：
シミュレーション・ゲームと協働的活動の場合 2006.6 異文化間教育 24号 pp76-91
- ・加賀美常美代 大学における異文化間コミュニケーション教育と多文化間交流 2006.9
日本研究 高麗大学校日本学センター 6号 pp107-135
- ・加賀美常美代・篠塚英子 大学生の国際交流意識とグローバル教育：お茶の水女子大学の場合 2007.3
人文科学研究 3号 pp175-190
- ・篠塚英子・加賀美常美代 グローバル社会への関心と女子学生のキャリア志向
—お茶の水女子大学生の調査〈第2回〉から 2007.3 人文科学研究 3号 pp159-174

◆研究内容

1. 異文化間コンフリクトと教育価値観

『多文化社会の葛藤解決と教育価値観』（ナカニシヤ出版）を科研の研究成果公開促進費で出版した。日本語教育場面での教師とアジア系留学生のコンフリクトの原因帰属と解決方略行動、教育価値観の関連を明らかにした。

2. コミュニティアプローチによる留学生支援

留学生の危機と介入、予防的教育的アプローチ、連携についての実践成果とコミュニティアプローチによる理論的枠組みを示した。

3. 多文化間交流の効果研究

大学教育プログラムにおける留学生と日本人学生の多文化間交流の実践を行い、その効果を質的・量的研究により表した。

4. 新入大学生の国際交流意識調査

新入生の国際意識調査からグローバル教育の効果、多文化理解態度、キャリア意識を検討した。

◆教育内容

学部の「異文化間コミュニケーション」、「比較日本文化論」は、参加型授業、協働的グループ活動を行った。前者は留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上を目指した。後者は、個人・集団・文化レベルでのコンフリクト解決のメカニズムの理解を目指した。「文化と人間関係Ⅰ」では、文化行動と心理学的理論をゼミナール形式で行った。

「学校カウンセリング(教職)」では、コミュニティアプローチによる心理教育的援助の講義のほか、スクールカウンセラー、組織カウンセラー、帰国生担当教員、養護教員をゲストスピーカーとして招聘した。大学院の「異文化間心理教育学特論」では、異文化間コミュニケーションの理論と研究方法について文献講読を通して講義を進めた。「異文化間心理教育学演習」では、多文化間カウンセリング、積極的傾聴、予防的支援活動の方法のスキル向上を目指した。

◆Research Pursuits

1. Intercultural conflict and educational value

“The conflict resolution of the multicultural society and education value” (Nakanishiya Publication) was published. In this research, I explained the relationship among causal attribution, conflict resolution style and educational value in the situation of Japanese language instruction setting.

2. Support for foreign students by community approach

I made it clear the methods of our intervention in foreign students’ crisis, preventive and educational approach, and cooperation in the community approach. In addition, I also explained the theoretical framework of them.

3. Research on the effects of multicultural exchange

I accounted for the way and the effects of multicultural exchange between foreign and Japanese students in the college education program, by using a qualitative and quantitative research.

4. Research of freshmen’s consciousness of international exchange

I conducted the research of incoming freshmen’s consciousness of international exchange and investigated the effects of global education, multicultural attitudes and career consciousness.

◆Educational Pursuits

I delivered lectures of “Cross-cultural communications” and “Comparative study of Japanese cultures” for undergraduates. In these lectures, I adopted the methods of cooperative group work. I aimed at their improving of foreign and Japanese students’ communication skill in the former, and, in the latter, their understanding of conflict resolutions at the each level of individual, group and culture. In “Culture and Human relationship I” for undergraduates, I delivered lectures on cultural behavior and social psychology .

In “School Counseling” for undergraduates, in addition to my lecture on psychological support by community approach, I invited school counselor, organization counselor, teacher of returnee students and nurse-teacher as guest speakers.

For graduates, I taught ” Intercultural Psychology and Education ”. In this lecture, I put emphasis on methodology of intercultural communication research. In “Seminar in Intercultural Psychology and Education”, I aimed at their improving skill of multicultural counseling, active listening and preventive support activity.

◆共同研究例

- ・異文化間コンフリクトと教育価値観の研究
- ・アジア諸国の対日イメージの形成要因とコミュニケーションのあり方の研究
- ・大学生の価値観と国際意識

◆共同研究可能テーマ

- ・教育価値観の尺度の有効性と国際比較、時系列研究・多文化理解態度尺度と教育プログラムの開発
- ・留学生のキャリア形成と帰国留学生ネットワーク構築

◆将来の研究計画・研究の展望

- ・多文化間の教育に関わる人々、多様な国籍の人々を対象に、葛藤解決方略と教育価値観、一般的価値観の関連を比較検討するとともに、教育価値観尺度の有効性について検討していきたい。
- ・アジア諸国の対日イメージ形成過程とコンフリクト解決プログラムの開発を検討していきたい。

◆受験生等へのメッセージ

多様な文化的背景をもつ人々は、日常生活で遭遇する異文化体験から様々な葛藤やストレスを抱えています。そのような時、周囲にいる人々は彼らをどのように理解し、関わっていったらよいでしょうか。コミュニティにおける多様性の意味や隣人として共に生きることはどのようなことか、一緒に考えていきたいと思います。